

エコアクション21 環境活動レポート

平成27年度

(平成27年4月 ~ 平成28年3月)



平成28年5月25日

清興建設株式会社

目 次

1. 組織の概要・対象範囲	-----	1
2. 環境方針	-----	2
3. 環境目標とその実績	-----	3
4. 環境活動計画	-----	5
5. 環境活動の取組み結果とその評価及び今後の取組み	-----	6
6. 環境関連法規の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無	-----	7
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	-----	8

1. 組織の概要・対象範囲

1-1. 組織の概要

- (1) 事業者名及び代表者 清興建設株式会社 代表取締役 原田 信一
- (2) 所在地 (本社事務所) 福岡市南区桧原7丁目40番5号
(資材置場・作業所) 福岡市早良区梅林7丁目15番6号

(3) 環境管理責任者・連絡先

環境管理責任者: 代表取締役 原田 信一
連絡先: TEL 092-512-0161
FAX 092-512-3325
E-mail seikou@q-fukuoka.com.
URL <http://www.q-fukuoka.com/seikou/>

(4) 事業規模

資本金: 2,500万円
売上高: 205百万円(平成27年度)
従業員数: 5人
床面積: (本社事務所) 117㎡
(資材置場・作業所) 436㎡

- (5) 事業内容 建築工事業(公共工事・ビル・工場・マンション・住宅・リフォーム)
福岡県知事許可(特-23) 第14548号(現在更新中)

- (6) 事業年度 4月 ~ 翌年3月

- (7) 法人設立年月日 昭和43年4月1日

1-2. 認証・登録の対象組織・活動

- (1) 対象組織 清興建設株式会社 本社、資材置場・作業所
(本社事務所)福岡市南区桧原7丁目40番5号
(資材置場・作業所)福岡市早良区梅林7丁目15番6号
- (2) 対象活動 建築工事業(木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の新築工事及び改修工事)
- (3) 対象外組織 なし(全組織、全活動を対象とする)

2. 環境方針

【理念】

清興建設株式会社は事業活動において生ずる環境への影響を考慮し、未来からのあずかりものとして環境をとらえ、次世代に引き継げるように、活動に取り組めます。

【行動指針】

1. 電力、燃料の消費量の抑制による二酸化炭素の排出量削減に取り組めます。
2. 廃棄物排出量削減のため、分別を積極的に行い、リサイクルを推進します。
3. 節水に努めます。
4. グリーン購入を推進します。
5. 省エネルギー型建築物の設計・施工提案及び耐震補強工事を推進します。
6. 地域貢献活動及びボランティア活動を行ないます。
7. 環境関連法規を遵守します。
8. 化学物質の内容把握に努め適正な使用を行います。
9. フロンガス規制法に基づき点検を行います。
- 10 環境活動レポートを作成し、公表します。

改訂日 平成28年6月24日
平成23年10月1日

清興建設株式会社

代表取締役

原田

信一

3. 環境目標とその実績

3-1 平成27年度における環境目標の達成状況

- ・平成26年度(平成26年4月～平成27年3月)の環境目標とその達成状況は、以下に示すとおりです。
- ・数値目標を掲げた環境目標について、本社(事務所)においてはほぼ達成できました。資材置場・作業所及び建設現場においては大型物件及び遠方物件が増加し、電気使用量の削減は達成できませんでした。

環境目標 (H22年度実績値をベースに削減する)		単位	平成25年度 (基準年)	平成27年度 (平成27年4月～平成28年3月)		目標 達成 状況	
			実績値	目標値	実績値		
本社 (事務所)	1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	15,174	14,567 (4%削減)	16,554 <13%増加>	×
		1-1. 電気使用量の削減	kWh	8,767	8,416 (4%削減)	7,959 <-6%削減>	○
		1-2. ガソリン使用量の削減	ℓ	5,040	4,838 (4%削減)	5,029 <+3%増加>	×
	2	総排水量(給水量)の削減	m ³	72	節水に努める	72	○
	3	廃棄物(一般廃棄物)の削減	kg	552	529 (4%削減)	483 <-9%削減>	○
	4	グリーン購入の推進 (事務用品)	品目	4	4	7	○
	5	省エネルギー型建築物の設計・ 施工提案及び耐震補強工事の 推進	件 (現場数)	9 (耐震補強)	11	11	○
6	地域貢献活動及びボランティア 活動への参加	回数	2	2	5	○	
資材置場・ 作業所及び 建設現場	1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	11,392	11,936 (4%削減)	9,881 <-18%削減>	○
		1-1. 電気使用量の削減	kWh	7,028	6,747 (4%削減)	4,365 <-36%削減>	○
		1-2. ガソリン使用量の削減	ℓ	4,600	4,416 (4%削減)	2,885 <-35%削減>	○
		1-3. 軽油使用量の削減	ℓ	319	306 (4%削減)	196 <-36%削減>	○
	2	リサイクル可能な産業廃棄物を 分別回収する	% (再資源化率)	34.4	分別を徹底する	98.34	○
	3	総排水量(給水量)の削減	m ³	8	現状把握	11	×
	4	グリーン購入の推進 (再生建設資材)	件 (対象資材関連 現場数)	2	2	2	○
5	化学物質の適正な管理	kg	-	現場における化学物質含有製品と使 用料の把握		○	

備考)・事業年度は4月～翌年3月の期間。

- ・二酸化炭素排出量の購入電力については、九州電力㈱の平成25年度実排出係数(0.613kg-CO₂/kWh)を用いて算出した。
- ・平成27年度の総排水量は井戸水使用の実数量把握が困難な為、福岡市下水道使用量の数値で示した。
- ・()は基準年に対する目標値の増減比率を示す。
- ・< >は目標値に対する実績値の増減比率を示す。

3-2. 今後の環境目標

平成28年度以降の中長期の環境目標は、以下に示すとおりです。

環境目標 (H22年度実績値をベースに削減する)		単位	実績値		目標値		
			平成26年度 (基準年)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
本社 (事務所)	1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	15,420 (26.27年の平均)	14,649 (5%削減)	14,494 (6%削減)	14,340 (7%削減)
		1-1.電気使用量の削減	kWh	8,158 (26.27年の平均)	7,750 (5%削減)	7,668 (6%削減)	7,586 (7%削減)
		1-2.ガソリン使用量の削減	ℓ	5,124	4,867 (5%削減)	4,816 (6%削減)	4,761 (7%削減)
	2	総排水量(給水量)の削減	m ³	72	節水に努める		
	3	廃棄物(一般廃棄物)の削減	kg	530 (26.27年の平均)	503 (5%削減)	498 (6%削減)	492 (7%削減)
	4	グリーン購入の推進 (事務用品)	品目	4	4	4	4
	5	省エネルギー型建築物の設計・ 施工提案及び耐震補強工事の 推進	件	9 (耐震補強)	11	11	11
6	地域貢献活動及びボランティア 活動への参加	件	2	2	2	2	
7	フロンガス規制に伴う点検			2ヶ月に1度フロンガスの点検を行う			
資材 置場・作 業所及び 建設現場	1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	8,886 (26.27年の平均)	8,441 (5%削減)	8,352 (6%削減)	8,263 (7%削減)
		1-1.電気使用量の削減	kWh	5,402 (26.27年の平均)	5,131 (5%削減)	5,077 (6%削減)	5,023 (7%削減)
		1-2.ガソリン使用量の削減	ℓ	2,331	2,214 (5%削減)	2,191 (6%削減)	2,167 (7%削減)
		1-3.軽油使用量の削減	ℓ	176	167 (5%削減)	165 (6%削減)	163 (7%削減)
	2	リサイクル可能な産業廃棄物を 分別回収する	% (再資源化 率)	34.38%	分別を徹底する		
3	総排水量(給水量)の削減	m ³	8.5	8	8	8	
4	グリーン購入の推進 (再生建設資材)	件 (対象資材 調達現場 数)	2	2	2	2	
5	化学物質の適正な管理		-	現場における化学物質含有製品と使用料の把握			

備考)・事業年度は4月～翌年3月の期間。

- ・基準年には25年度の実績値と26年度の実績値の平均を記入
- ・二酸化炭素排出量の購入電力については、九州電力㈱の平成26年度実排出係数(0.584kg-CO₂/kWh)を用いて算出した。
- ・化学物質は自社での取扱いがないので、今回は目標から除外した。

4. 環境活動計画

4-1 本社(事務所)

(1) 二酸化炭素排出量の削減

① 電気使用量の削減

- ・照明の管理徹底(使用していない部屋及び休憩時の消灯)
- ・空調の適温化(暖房20度、冷房28度)
- ・パソコン等の事務用機器の節電徹底(コンセントをこまめに抜く)
- ・クールビズ、ウオームビズの推進

② ガソリンの使用料削減

- ・エコドライブの推進
- ・アイドリングストップ
- ・タイヤの空気圧のチェック

(2) 総排水量(給水量)の削減

- ・蛇口はこまめに閉める(水の出っぱなしをやめる)
- ・洗車はバケツに水を入れて行なう

(3) 廃棄物(一般廃棄物)の削減

- ・排出量の計測(現状の把握)
- ・廃棄物の分別を決め、実行する
- ・使用済み用紙の裏面利用

(4) グリーン購入の推進(事務用品)

- ・事務用品のグリーン購入対象商品を把握し、購入を推進する

(5) 省エネルギー型建築物の設計・施工提案及び耐震補強工事の推進

- ・太陽熱利用住宅(OMソーラーハウス)を推進する
- ・木造住宅の耐震診断をして、補強工事を提案する

(6) 地域貢献活動及びボランティア活動への参加

- ・地域の清掃活動に参加する
- ・地域のお祭りで舞台を設営する

(7) フロンガス抑制法に伴う簡易点検

- ・異常振動や油のにじみがないか
- ・腐食、錆やキズ、霜がついていないか

4-2 資材置場・作業所及び建設現場

(1) 二酸化炭素排出量の削減

① 電気使用量の削減

- ・照明の管理徹底(作業していない場所及び休憩時の消灯)

② ガソリン、軽油使用量の削減

- ・段取りをよくし、無駄な移動をしない
- ・エコドライブの推進

(2) リサイクル可能な産業廃棄物を分別回収する

- ・廃棄物の分別を徹底し、再資源化に努める
- ・余分な材料を注文しない。
- ・発注間違いをなくす。
- ・産業廃棄物の適正処理(委託契約書・マニフェスト伝票)

(3) 総排水量(給水量)の削減

- ・蛇口はこまめに閉める(水の出っぱなしをやめる)

(4) グリーン購入の推進(再生建設資材)

- ・クラッシュランはリサイクルされたものを購入する

(5) 化学物質の内容把握に努め適正な使用を行います、

- ・安全シートを取り寄せる。
- ・化学物質含有製品の把握
- ・塗料・接着剤等使用時の製品の検討

5. 環境活動の取組み結果とその評価及び今後の取組み

平成27年度における環境活動の取組み状況及び今後の取組みは以下のとおりです。

5-1 本社(事務所)

(1) 二酸化炭素排出量の削減

平成27年度

<電気使用量の削減>

- ・照明の管理徹底は、使用していない部屋、休憩時の消灯は徹底出来ました。
- ・空調の適温化の取組みでは、午前中はなるべく冷房を控えるようにしながら、熱中症指数を取り入れ柔軟に対応した。
- ・パソコン等の事務機器の節電徹底はほぼ出来ています
平成27年度の使用達成状況は事務所は目標値に対して-6%削減に成功しました。
引き続き取組み目標として掲げ、活動を推進します。

<ガソリン使用量の削減>

- ・エコドライブの推進を行いました。遠方の住宅診断や工事依頼などがあり、移動距離が増えました。極力アイドリングを減らすよう努力はしましたが、結果として3%増加となってしまいました。低燃費の車の購入も視野に入れ検討したい。

(2) 総排水量(給水量)の削減

- ・事務所は、井戸水の利用をしている為、蛇口をこまめに閉めること、洗車はバケツで水を溜めて使う等、取組んでいます。引き続き取組み目標として掲げ、活動を推進していきます。

(3) 廃棄物(一般廃棄物)の削減

- ・社員の意識も浸透し、使用済み用紙の裏面利用等で-9%削減することが出来ました。
今後も無駄なプリントアウトに注意し、引き続き取組み目標を掲げ、活動を推進していきます。

(4) グリーン購入の推進(事務用品)

- ・ペーパーファイルは留め具が金具ではなくプラスチック製の物を使用し、プリンターインク、保存用ファイル、ファイルケース、トイレトペーパー等、グリーン商品と呼ばれる商品を購入しています。目標としては品目を徐々に増やして行きたいと思えます。

(5) 省エネルギー型建築物の設計・施工提案及び耐震補強工事の推進

- ・エコリフォーム(断熱窓改修、断熱材充填)、太陽光発電、OMソーラーハウスの設計・施工依頼がなく、達成できませんでした。今後もお客様に提案していきます。
- ・住宅耐震診断を継続して行った結果、耐震改修工事は目標件数に達成できました。
関心も高まってきておりますので、引き続き、次世代にわたり使用可能な耐震改修工事・リフォーム工事支援を行います。

(6) 地域貢献活動及びボランティア活動への参加

- ・地域子供育成の廃品回収に提供し、地域子供の為に役に立っています。
- ・町内清掃の定期的な地域の行事参加や夏祭りの舞台作り、『こども110番の家』も積極的に参加し地域環境の保全に取り組みます。
- ・耐震セミナーなどへ積極的に参加し、周知活動を行うことができました。

(7) フロンガス抑制法に伴う簡易点検

- ・異常振動や油のにじみがないかを目視で点検し異常は見受けられませんでした。
- ・腐食、錆やキズ、霜がついていないかの点検では屋根のある所に置いているので、激しく腐食することや錆も少ない。

5-2 資材置場・作業所及び建設現場

(1) 二酸化炭素排出量の削減

<電気使用量の削減>

- ・基準年と比較すると資材倉庫の電気使用の管理は出来ていると思います。使用も抑える事が出来、結果的には-36%削減に成功しました。引き続き取り組み目標を掲げ、活動を推進します。

<ガソリン使用量の削減>

- ・エコドライブの推進や効率よく動く事により、-35%削減に成功しました。取り組み目標を意識し、活動を推進していきます。
- ・軽油は-36%削減できましたが2tトラックによる運搬のばらつきが有る為、評価できません。

(2) リサイクル可能な産業廃棄物を分別回収する

- ・分別回収可能な産業廃棄物の分別を徹底し、再資源化は出来ています。引き続き取り組み目標として掲げ、活動を推進していきます。
- ・一般廃棄物の空缶、ペットボトルの分別を徹底し、再資源化は出来ています。引き続き取り組み目標として掲げ、活動を推進していきます。

(3) 総排水量(給水量)の削減

- ・資材置場・作業所は、市水の為一定の基本料金は発生します。今後も蛇口をこまめに閉める等、節水活動に取り組んでいきます。建設現場の計量可能な仮設水道は平成27年度期間中にはありませんでした。

(4) グリーン購入の推進(再生建設資材)

- ・現状のグリーン購入品目となりうる材料の把握をしました。採用件数を増やせるよう取り組みます。

(5) 化学物質の内容把握に努め適正な使用を行います、

- ・化学物質含有製品の把握の為、安全シートを取り寄せPRTR法に抵触する物質の把握に努めました。今後もより安全で、適切な使用を遵守したいと思います。

6 環境関連法規の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

- ・平成27年度(平成27年4月～平成28年3月)において、環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの違反等の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

7-1 取組みの評価結果

- ・社員一人ひとりの意識の向上と取組により、目標数値も年々下がる中、本社事務所の電気使用量については、6%に削減することが出来ました。
資材置場・作業所及び建設現場においては、仕事の量にもよりますが、電気使用量は36%削減に成功しました。又、事務所のガソリン使用料としては、遠方のお客様もいらっしゃいますので、移動や耐震診断等で3%増加という結果になりました。工事車両はアイドリングストップやエコドライブ努め、現場間の移動も少なかったので35%削減する事ができました。
引き続き社員の意識を高め、削減向上に取組みます。
- ・総排水量(給水量)の削減については、事務所は井戸水を利用の為しっかり取組みを強化していきたい。資材置場・作業所は水使用量を把握した結果、43%増加となってしまいましたが、これは基本数値がある程度占めるので仕方ないところではあります。なるべく節水を心掛け取組んでいきます。
- ・産業廃棄物の削減は分別回収・再資源化の取組みを行っていますが、今後もっと無駄を削減する努力をしていきます。
- ・グリーン購入については目標を達成できました。今後も事務所や現場ではグリーン商品購入、再生建設資材の調達を積極的に進めていきます。
- ・省エネルギー型建築物の設計・施工提案及び耐震補強工事の推進については現在取組みを行っていますが、耐震工事は年々増加傾向にあります。引き続き、提案、推進を行なっていきます。
- ・地域貢献・ボランティア活動は、夏祭りの舞台作り、町内清掃、子供110番の家や耐震セミナーなど積極的に参加していきたい。
- ・化学物質は昨年度より取組始めました。今後共環境や人にやさしい材料を使用しPRTR法を理解しなるべく有害となる物を減らせるよう、下請業者と協力を図っていきたい。

7-2 環境経営システムの評価結果

- ・このシステムを効果的に運用するため、今後も以下の周知活動等に取り組めます。
 - ①現場においては、ポスター掲示やセミナーなどで周知徹底を行い、関連業者の方々もともに取組めるよう整えていきます。
 - ②外部関係者に対しては会社ホームページで取り組み活動を発表していきます。
 - ③今後も環境関連法規等の遵守に努めていきます。

7-3 見直し結果

- ・全体の数値を見直し、検討した結果、昨年より削減できていると思います。しかし二酸化炭素排出量、事務所のガソリン使用料が響いており、仕事上遠方に行くことが多かったので致し方なく思うところがあります。年々目標の削減率も上がってきている中での削減は厳しいものです。
燃費向上の為、車の買い替えを検討したい。
削減目標は変更せずに、仕事に支障が出ないように、出来る事を実行し、省エネルギー建築住宅や耐震補強工事などを推進していき、更に個人個人のコミュニケーション能力や意識を高め、今後も地球環境の保全に貢献できるよう数値の把握に努めていきます。